

複数病虫害抵抗性を持ち高温登熟耐性が優れる 水稲新品種「秋はるか」の育成

農研機構 九州沖縄農業研究センター



「秋はるか」は、実る時期が高温になっても充実の良い、高品質なお米ができます。稲の重要病害のいもち病や縞葉枯病に強く、またトビイロウンカの被害も比較的少ないため、農薬の使用量を減らすことで生産コストを下げられます。ご飯の食味は、外食や中食に向き、あっさりとしています。

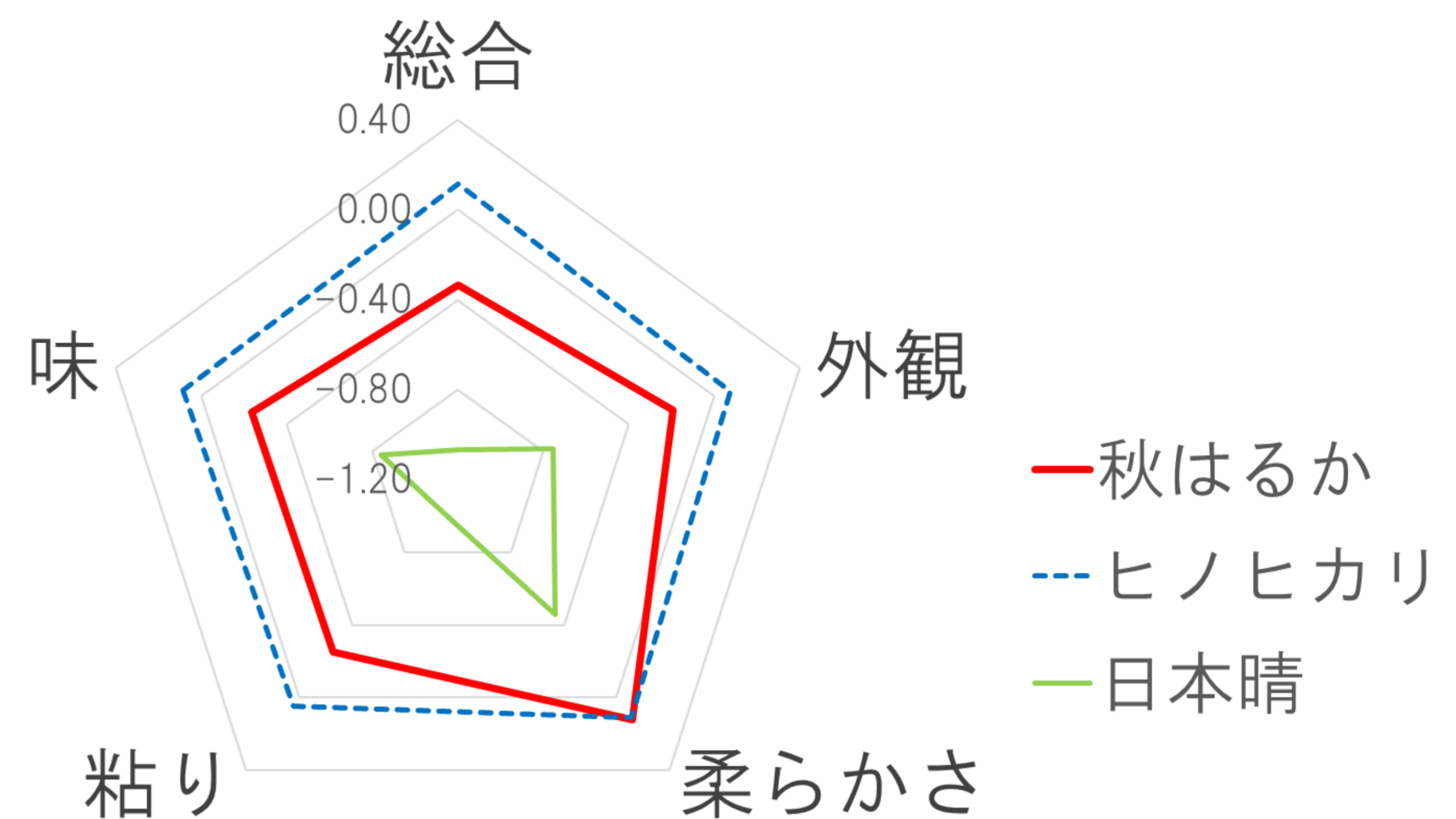
1 高気温でも優れる玄米品質



秋はるか ヒノヒカリ

高温で実った玄米。「秋はるか」の玄米は、白濁した部分が少なく品質が優れます。
(出穂から20日間の平均気温は29.4℃。)

2 あっさりとしたご飯



「秋はるか」のご飯の食味特性。「ヒノヒカリ」より粘りが弱く、柔らかさは同程度です。

3 「ヒノヒカリ」より収穫量が多く、病気にも強い

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	茎長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	倒伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	標準比 (%)	千粒重 (g)	玄米品質 (1-9)	葉いもち	縞葉枯病
秋はるか	8.28	10.12	87	20.1	322	0.2	56.7	115	22.9	4.5	強	抵抗性
ヒノヒカリ	8.25	10.09	83	19.0	343	0.6	49.4	100	22.6	6.3	やや弱	罹病性

育成地(福岡県筑後市)における栽培試験の成績。2011-2016年の平均。6月中下旬移植。施肥窒素は0.8kg/a。玄米品質は1(優)-9(劣)の9段階評価。

● 普及・社会実装への道筋

佐賀県、静岡県等で試作が行われています。複数の抵抗性をあわせ持つことから、農薬を減らした低コスト生産が期待できます。ご飯の粘りが弱いため、大量炊飯時の作業効率を上げられる可能性があります。